

36回目の「8.15」をむかえて

日刊 勤労千葉

81.8.15

No. 822

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六・公電 四三二七二〇七

軍事大国化・改憲攻撃と対決する労働運動を

三十六回目の「八月十五日」、敗戦記念日が巡ってきた。

第二次世界大戦から三十六年、今ほど核戦争の危機が高まっているときはない。われわれはヒロシマ・ナガサキの悲劇を二度と再び繰り返してはならない。そして、日本人民として再び侵略戦争に加担することを拒否しなければならない。今日、政府自民党が推し進めている軍事大国化・核武装化・憲法改悪攻撃と対決する労働運動の構築と戦闘的再生にむけて奮闘しなければならぬ。

「8・15」は、そのための出発点であり、全国的な反戦闘争の原点としなければならない。

政府自民党は、いかに「8・15」を記念しようとしているのか

鈴木自民党政府は、敗戦記念日の八月十五日、昨年に続いて鈴木首相以下大半の閣僚が靖国神社に公式参拝し、そして、この「8・15」を来年から「戦没者追悼の日」とする方針を決定した。

幾百万、幾千万の中国・東南アジア諸国人民の殺りくと侵略に日本の労働者人民をかりたてた「太平洋戦争」。

そして、この「太平洋戦争」の中で死んだ数百万の労働者人民を「祖国と天皇のために殉じた英霊」として靖国神社に祭り、これを公式参拝し、八月十五日を「戦没者追悼の日」として、全国的な行事を行なおうとしているのだ。

こうした動きは、鈴木内閣発足以来約一年、矢継ぎ早の軍事大国化・核武装化・憲法改悪攻撃と軌を一にした攻撃としてかけられているのである。

「日米軍事同盟」を公然と打ち出した日米共同声明、戦争への道に国家総動員体制をもくろむ有事法制研究・憲法九条廃止をはじめとする憲法改悪攻撃、そして、ライシャワー発言、エルズバーク博士証言、核空母ミッドウェーの横須賀寄港、教科書改悪など公然たる軍事大国化・核武装化・改憲攻撃がかけられている。

このように、政府自民党は、軍事力の増強に核武装と憲法改悪をもって再び侵略戦争へ全人民を動員しかりたてるため「8・15」を「記念しようとしているのだ。

「8・15」を原点に、反戦・改憲阻止・三里塚ジェット闘争へ

政府自民党の軍事大国化・核武装化・改憲攻撃は、一方で、労働運動の右傾化・産業報国会化に

ますます拍車をかけている。

今日、日本労働運動は、春闘はおろか行政改革、官公労働者への大合理化攻撃、国鉄三五体制攻撃などにつぎつぎと屈服しつつある。

しかし、広範な日本の労働者人民の反戦・反核意識は、日米共同声明や核空母ミッドウェー寄港阻止の闘いに見られるように根強く生きつづけている。

さらに、十五年にわたる三里塚闘争をはじめ、原発反対の闘い、そして、なによりも81・3ジェット闘争を闘ったわが勤労千葉への支援基金が、二二〇〇万円をこえ、しかも着実に全国で取組まれている状況。などなど。

八〇年代の厳しい情勢下においてわが勤労千葉を先頭とする戦闘的労働運動と三里塚闘争をはじめとする全国住民闘争の着実な前進が確実に打ちとられている。

われわれは、この広はんな闘う労働者人民との連帯をより強化し、政府自民党の推進する軍事大国化・核武装化・改憲攻撃と対決する闘いを一層強めなければならない。

そのためには、何よりも、ますますその反動性・反労働者性をむき出しつつある勤労「本部」反動分子を国鉄労働運動・日本労働運動から一掃・追放し、勤労大改革をかちとらなければならない。そして、「8・15」をもって、反戦・改憲阻止・三里塚ジェット闘争のさらなる貫徹をもって、戦争と反動への道を阻止しよう。

